

WS
5

昭和・文学・温泉

※講義の後に討論あり

【定員】 30名 【受講料】 2年・1年会員ともに9,270円 聴講生10,810円

『歴史・文学・人間学』【ワークショップ】 文学 【時間】 毎回 13時00分～ 15時00分 (計6回)

概要

このWSでは、昭和に書かれた文学のなかでも、とりわけ「温泉」を、その舞台あるいは一要素として描き込む作品を取り上げ、受講生の皆さんと読んでいきます。作家間での温泉を描くスタイルの差や、「文学」と切り結びその意味を更新していく温泉表象の可能性について考えます。WSでは、講師による現代での感覚では捉え難い同時代の政治的状況、文化的背景などの丁寧な注釈と解説、従来の読みの紹介を踏まえ、多角的な視点から議論を行ない、受講生それぞれが読みを深めることを目指します。

回	月/日(曜)	会場	学習内容	講師名(敬称略)
1	4/24(水)	川崎市 生涯学習 プラザ	坂口安吾『逃げたい心』（青空文庫、『木枯の酒倉から・風博士』講談社文芸文庫） 徳利探しの長野旅行から温泉休養へと出かけ、湯治場の混浴習俗に心動かされる筋もなく話もない本作における、「郷愁」と「童話」、「死」と「生」の問題について考察する。	相模女子大学講師 安藤 史帆
2	5/ 8(水)		織田作之助「秋深き」（青空文庫） 肺病の転地療養に山間の温泉を訪れた主人公の隣部屋の夫婦との交流の描かれる本作において、温泉の舞台と関西弁がどのように絡み合っているのかを考察する。	
3	5/22(水)		原田康子「挽歌」（新潮文庫） 北海道という舞台設定と、幼いころに負った左肘の後遺症を持つ主人公の独白体の文体に着目しながら、本作の有り様について考察する。	
4	6/ 5(水)		井上靖『しろばんば』（新潮文庫） 温泉村の祖母に預けられた少年の視点で描かれ、共同浴場での出来事を伴いながら展開していく、本作の成長物語としての有り様について考察する。	
5	6/26(水)		古井由吉「木曜日に」（『円陣を組む女たち』中公文庫★ 分明と不分明、正気と狂気、現実と錯覚あるいは不眠との境を確かめるように、ひとつひとつの言葉を構成し築き上げられる本作の有り様について考察する。	
6	7/10(水)		後藤明生「S温泉からの報告」★ 病を患い温泉へと訪れる主人公が、前近代と近代に構築された「温泉」解釈のいずれにも裏切られるように展開する本作について、「報告」という形式とその受け手に着目して考察する。 あわせて「悪夢」★についても考察する。	

連絡
事項

★は事前に配付します。資料代は、別途集金いたします。